

MJサイエンス 科学の甲子園群馬県予選 (課題実技競技)

令和元年12月14日(土) 群馬大学荒牧キャンパス

科学の甲子園群馬県予選会が、10月27日の筆記・実験競技に続き、課題実技競技が行われました。

今回の競技は惑星探査機を模した企画で、はじめに「ターゲットマーカ―」を着地させ、それを目印として「探査機」をターゲットマーカ―と同じ場所にゆっくりと着地させるというものです。与えられた材料は、はがき大10枚の用紙と、接着用のテープのみ。30分間に前述の2機を作製し、探査機のターゲットマーカ―からの距離(短い方が高得点)と時間(長い方が高得点)を競うものです。この競技については、筆記・実験競技の時に公表されており、各校は与えられた規定に基づいて、創意工夫をしながら試作をすることができます。本校が考案した探査機は、規定のとらえ方の違いにより当日の競技では認められず、まったく異なるものをその場で考案し、再作製することとなりました。再製作に与えられた時間は、考案時間も含めて40分間ほど。それでも生徒たちは相互に意見交換しながら、時間内に作製を完了させました。ただ競技では思うような動きを得ることができず、入賞は叶いませんでした。

競技終了後、昨年度からの試みとして、「サイエンスコミュニケーションゲーム」が実施されました。これは、各校混成の4名程度のチームを結成し、課題として与えられた構造物を文章で表現。その文章だけを頼りに構造物を再現するものです。チーム内での表現力と読解力、コミュニケーション力が試される、きわめて難易度の高いゲームでした。

その後総合順位の発表が行われましたが、健闘むなしく、本校チームの入賞はなりません。来年度こそ優勝を勝ち取れるよう、決意を新たにしたメンバーたちでした。



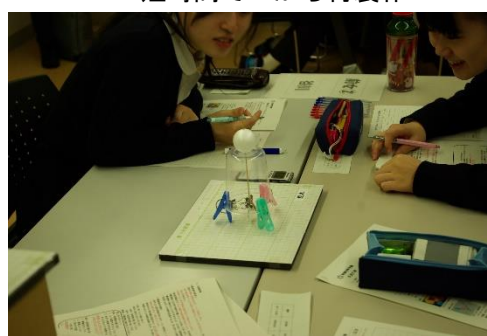
全員が協力して探査機を作製



短時間で1から再製作



緊張感の中での競技



サイエンスコミュニケーションゲーム